

講義要項(シラバス)

科目名	認知症の理解			授業方法	講義・演習	
担当教員名	小林 直竹			必修・選択	必修	単位数 4単位
学科	介護福祉科	学年・時期	1年 半期(前期)		回数	30回
担当教員の実務経験	看護師として慢性期医療および高齢者看護に従事し、認知症高齢者の症状理解やPSDへの対応、薬剤管理、家族支援、多職種連携を実践してきた。これらの経験を基に、認知症の進行に応じた関わり方や環境調整、コミュニケーションの工夫を具体例を交えて指導する。医療職としての視点から、学生が利用者理解に基づく適切な支援を行えるよう教育している。					
授業の目的及びねらい 本授業では、認知症の基礎理解から症状・診断・治療、ケアの理念、実践的支援、家族・地域支援までを体系的に学ぶ。認知症の人の尊厳を守り、本人主体のケアを実践するための知識と視点を身につけることを目的とする。さらに、当事者の思いや生活背景を理解し、適切なコミュニケーションと支援につなげる力を養う。						
授業終了時の到達目標 ・認知症の基礎知識と症状の理解、ケアの理念(PCC)を説明できるようになる。 ・認知症の人の心理や生活背景を踏まえたコミュニケーションと日常生活支援を実践できる基礎力を身につける。 ・家族支援・多職種連携・地域支援の重要性を理解し、総合的なケアを考えられるようになる。						
回数	各回のテーマ・内容					授業以外の事前準備 学習内容
1	認知症のある高齢者の現状と今後 ねらい: 認知症の社会的背景と現状を理解する 内容: ・認知症高齢者の推移 ・有病率 ・今後の社会的課題					適宜、指示します。
2	認知症とは何か① ねらい: 認知症の定義と診断基準を理解する 内容: ・認知症の定義 ・診断基準(DSM/ICD)					適宜、指示します。
3	認知症とは何か② ねらい: 初期症状と特徴を理解する 内容: ・初期の生活障害 ・認知症の症状の全体像 ・認知症の特徴					適宜、指示します。
4	脳のしくみ① ねらい: 脳の構造と認知症の病理を理解する 内容: ・脳の構造・機能 ・認知症の病理 ・発達の逆行					適宜、指示します。

5	<p>脳のしくみ②</p> <p>ねらい:脳の変化と症状の関係を理解する</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 脳の構造と症状の関係 • 意識障害でないこと • うつ・アパシー • 老化との違い 	適宜、指示します。
6	<p>認知症の人の心理</p> <p>ねらい:認知症の人の心理的背景を理解する</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不安・喪失感 • 病識低下 • うつの病態 • 心の理解 	適宜、指示します。
7	<p>中核症状①</p> <p>ねらい:中核症状の基本を理解する</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中核症状とは • 記憶障害 • 見当識障害 	適宜、指示します。
8	<p>中核症状②</p> <p>ねらい:認知機能障害の理解を深める</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遂行機能障害 • 空間認知障害 • 視覚認知障害 	適宜、指示します。
9	<p>中核症状③</p> <p>ねらい:高次脳機能障害の理解を深める</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会的認知の障害 • 失語・失行・失認 • 病識低下 • 神経症状 	適宜、指示します。
10	<p>生活障害</p> <p>ねらい:生活障害の全体像を理解する</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • IADL障害 • ADL障害 • 家族関係 • 社会参加 	適宜、指示します。
11	<p>BPSD</p> <p>ねらい:BPSDの理解と評価を学ぶ</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> • BPSDの定義 • 要因・誘因 • 主要なBPSD • 評価尺度 	適宜、指示します。

	診断と重症度	
12	ねらい: 診断と重症度判定の流れを理解する 内容: ・ 診断の流れ ・ 重症度判定	適宜、指示します。
13	原因疾患 ねらい: 認知症の原因疾患を理解する 内容: ・ アルツハイマー型 ・ 血管性 ・ レビー小体型 ・ 前頭側頭型 ・ 治療可能な認知症 ・ 若年性認知症	適宜、指示します。
14	治療薬と予防 ねらい: 治療薬と予防の考え方を理解する 内容: ・ 神経伝達物質 ・ 治療薬(AChE阻害薬など) ・ 疾患修飾薬 ・ BPSD治療薬 ・ 予防因子	適宜、指示します。
15	認知症を取り巻く状況 ねらい: 認知症ケアの歴史的背景を理解する 内容: ・ 偏見の背景 ・ ケアの変遷 ・ 本人主体の社会へ	適宜、指示します。
16	認知症ケアの理念 ねらい: ケアの理念と倫理を理解する 内容: ・ ケアの理念 ・ 倫理 ・ 権利擁護 ・ 本人主体のケア	適宜、指示します。
17	パーソン・センタード・ケア ねらい: PCCの理論と実践を理解する 内容: ・ PCCの考え方 ・ 3つのステップ ・ 実践例	適宜、指示します。
18	当事者の視点 ねらい: 当事者の思いを理解する 内容: ・ 当事者の思い ・ 生活への影響 ・ 尊重した支援方法	適宜、指示します。

19	<p>アセスメント ねらい:アセスメントの基本を理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 理解の視点 • 特性を踏まえたツール • 健康状態の評価 </p>	適宜、指示します。
20	<p>コミュニケーション ねらい:コミュニケーションの基本を理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 基本姿勢 • 実践 • 意思表出困難な人への対応 </p>	適宜、指示します。
21	<p>日常生活ケア① ねらい:IADL支援の基本を理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 食事準備 • 服薬管理 • ごみ処理 </p>	適宜、指示します。
22	<p>日常生活ケア② ねらい:ADL支援の基本を理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 食事 • 排泄 • 入浴 • 清潔保持 </p>	適宜、指示します。
23	<p>日常生活ケア③ ねらい:生活全体を支えるケアを理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 休息・睡眠 • 活動・生きがい • BPSDケア </p>	適宜、指示します。
24	<p>アプローチ ねらい:多様なケアアプローチを理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • ユマニチュード • バリテーション • その他のアプローチ </p>	適宜、指示します。
25	<p>人生の最終段階のケア ねらい:終末期ケアの理解を深める 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の終末期 • 認知症の終末期 • 主な課題 </p>	適宜、指示します。
26	<p>環境づくり ねらい:環境が行動に与える影響を理解する 内容: <ul style="list-style-type: none"> • 環境の重要性 • 自宅・施設の環境づくり • 具体的な工夫 </p>	適宜、指示します。

27	<p>家族支援 ねらい:家族支援の重要性を理解する 内容: ・ 家族の状況 ・ 心理過程と葛藤 ・ レスパイトケア ・ 家族支援の実践</p>	適宜、指示します。
28	<p>介護福祉職への支援 ねらい:介護職支援の視点を理解する 内容: ・ 働きやすい環境 ・ チームケアの実践</p>	適宜、指示します。
29	<p>地域生活支援・多職種連携 ねらい:地域で支える仕組みを理解する 内容: ・ 認知症施策 ・ 地域生活支援 ・ 当事者活動 ・ 多職種連携</p>	適宜、指示します。
30	<p>総まとめ・統合学習 ねらい:全範囲を統合し、実践に活かす 内容: ・ 全章の振り返り ・ ケーススタディ ・ グループディスカッション ・ 今後の課題整理</p>	適宜、指示します。
<p>成績評価の方法</p> <p>授業参加・態度 :50% 授業への主体的な参加姿勢を重視して評価する。出席状況・授業中の取り組み姿勢・発言や質問などの積極性・グループワークにおける協力的態度 他者の意見を尊重しながら学びに参加する姿勢 小テスト・課題・科目評価試験 :50% 授業内容の理解度を確認するため、以下を評価対象とする。 ・ 各章末の確認テストワークシート・課題提出物 科目評価試験(筆記または実技を含む場合あり) 知識の定着度、理解の深さ、実践への応用力を総合的に評価する。</p>		
<p>使用テキスト・参考書等</p> <p>中央法規出版『最新介護福祉士養成講座生活支援技術 I 第3版』 ここからはじめる介護福祉士国家試験スタートブック2027 教員作成資料</p>		
<p>授業に関する特記事項(携帯電話の取り扱いや授業内のルール等)</p> <p>グループワークでは互いを尊重し、積極的に参加すること。 ・ 授業中の私語・飲食は禁止(水分補給は可)。 ・ 教室内の撮影・録音は禁止(許可がある場合を除く)。</p>		